

「物流問題研究」は2月、8月の年2回発行している。偶数号（今回は58号）の編集は夏真っ盛りの期間中となり、暑さには強い編集人でも少しばかりへたりそうになる。

然し、今夏は違った。17日間にわたるロンドンオリンピックが開催された。新聞に、TVに、YAHOOニュースに、世界の選手の活躍する姿が報道される。一通り選手のプロフィールとルールを頭に入れては、暑さも忘れて競技観戦に熱中する。男女競泳、なでしこジャパンは素晴らしかった。女子レスリング3連覇が何と2人も。さらに、テニスの男子シングルス88年ぶり準々決勝進出、火の鳥NIPPONも28年ぶりの銅メダル、バドミントン女子ダブルスで初めてとなる銀メダル、レスリング男子では金メダル獲得は24年ぶり、ボクシング48年ぶりに金メダル獲得などなど、である。

経済、産業、政治に今ひとつ勢いのない中であって、スポーツでは「ニッポン復活」を印象付けた。また、世界新も多数出た。圧巻は男子4×100Mリレーでのジャマイカの36秒84。男子1500m自由形の孫楊14分31秒02。限界かと思われる記録も、そう長くない期間で塗り替えられる。1cmを伸ばし、0.01秒を短縮するための努力の積み重ねが実を結んだ結果だろう。

学問の進歩や知の発展も同じだ。研究成果や発見を共有し、次の世代がそれを糧にしてその先にある理論や真実を少しだけ切り開く。努力する多くの人々の手を経て、大きな成果や発展として結実する。それには「知の共有」が重要なカギとなるだろう。

『物流問題研究58号（2012年夏）』は「物流とコンプライアンス」を特集のテーマとして取り上げた。関越自動車道の高速バス事故で運行管理や点呼の重要性が注目されている。安全とコスト削減の両立は、旅客運送だけでなく貨物運送にとっても大きな課題であり、本号でもその実情や貴重な考え方をいただいた。この場を借りて、お礼を申し上げたい。なお、本誌は本学ホームページに掲載しており、誰でも閲覧できる。「知の共有」の場として少しでも役立てばと願っている。

なお、本誌の掲載論文ならびにロジスティクス産学連携コンソーシアムのタイムリーな活動情報も、本学のホームページにも掲載しており、是非お立ち寄りいただければ幸甚である。(http://www.rku.ac.jp/index.html)

(小野)